



## 大学図書館問題研究会第 34 回京都支部総会 を開催しました

日 時：2011 年 7 月 30 日（土） 11:00-12:00

場 所：京都市国際交流会館

参加者：11 名

- 【第 1 号議案】 2010 年度（2010.7～2011.6）活動総括及び  
2011 年度（2011.7～2012.6）活動方針
- 【第 2 号議案】 2010 年度（2010.7～2011.6）決算案及び  
2011 年度（2011.7～2012.6）予算案、会計監査報告
- 【第 3 号議案】 2011 年度大学図書館問題研究会京都支部役員候補

支部事務局から第 1～3 号議案について提案と説明があり、質疑・検討の後、原案のとおり了承されました。

当日の議事メモ・補足事項等については 9 ページをご覧ください。

2011 年度は別記、「2011 年度大学図書館問題研究会京都支部役員」を中心に、「2011 年度（2011.7～2012.6）活動方針」及び「2011 年度（2011.7～2012.6）予算」に沿って支部活動を運営していきます。引き続き、支部活動へのご参加と支部運営へのご協力をお願いいたします。

### [目 次]

大学図書館問題研究会第 34 回京都支部総会を開催しました	…	1
2010 年度活動総括及び 2011 年度活動方針	…	2
2010 年度決算案及び 2011 年度予算案、会計監査報告	…	7
2011 年度大学図書館問題研究会京都支部役員	…	9
大学図書館問題研究会第 34 回京都支部総会 議事メモ・補足事項	…	9
大図研京都ワンディセミナー		
「伝える技術を磨こう～比較文化の視点で発信力アップ～」参加報告	豊田哲也	… 11

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール：kyoto@daitoken.com （大学図書館問題研究会京都支部）

URL：http://www.daitoken.com/kyoto/index.htm

<b>大学図書館問題研究会第 34 回京都支部総会議案</b>
---------------------------------

## 【第 1 号議案】

2010 年度 (2010.7~2011.6) 活動総括及び

2011 年度 (2011.7~2012.6) 活動方針

## 1. 2010 年度活動総括

## (1) 研究交流活動

2010 年度は、2 回以上のセミナー開催を年度目標とし、実現しました。2010 年 12 月に開催した大図研京都ワンディセミナーでは、障害学生支援をテーマに京都大学及び立命館大学の実践例をご報告いただき、参加者アンケートでも好評をいただきました。また日程調整の関係上、2011 年 7 月の開催となりましたが、「伝える技術の向上」をテーマにしたワークショップ形式のセミナーを企画しました。

セミナーでは、従来、参加者との協働を目的に当日準備担当を募っていましたが、今年度は、企画実施全般における有意義な経験の共有等を目的に、支部委員以外のスタッフを募集しました。これに 3 名の応募を得て、7 月開催のセミナーでは、立案段階からの協働を行いました。

広報については、メーリングリスト等への周知、京阪神の大学図書館等へのチラシやメールでの案内、Twitter アカウント「daitokenkyoto」による発信などを展開し、参加者数の増加を図っています。また、あらたな会場での実施、適切な参加費設定の検討などよりよい運営の検討を進めています。

## 1) 大図研京都ワンディセミナー「障害学生支援の新たな潮流：大学における障害学生支援課題と図書館の実践報告」

日時：2010 年 12 月 18 日 (土) 13:30~16:45

講師：村田 淳氏 (京都大学身体障害学生相談室相談室員)

河野恵美氏 (立命館大学教育学部共通教育課サービスラーニングセンター障害学生支援室主事)

丸山浩史氏 (立命館大学図書館サービス課)

場所：京都私学会館 205 会議室

参加費：大図研会員は無料／非会員は 500 円

参加者数：40 名

## 2) 大図研京都ワンディセミナー「伝える技術を磨こう：比較文化の視点で発信力アップ！」

日時：2011 年 7 月 30 日 (土) 13:30~16:45

講師：松中みどり氏 (アジアセンター英語講師、アルク教育社講師、

ピナツボ・アエタ教育里親プログラム代表)

場所：京都市国際交流会館 第 1 会議室

参加費：大図研会員は無料／非会員は 500 円

公募企画チーム：久保山健 (大阪大学附属図書館)・三本木彩 (京都大学文学研究科図書館)・田中翔大 (立命館大学図書館)

## (2) 支部報

発行期日の遅れは生じましたが、計画的発行に努め、所定の号数を発行しています。くわえて、小特集としてイベントについて複数の寄稿を得たり、あらたな連続記事として「わたしの図書館紹介します！」を開始したりするなど、紙面の充実を図っています。

なお、会員はもとより非会員からも幅広く寄稿していただきましたが、会員に「発表の場を提供する」という目標の実現は、引き続いての課題です。

また、バックナンバーの電子化・保存のプロジェクトを継続して実施しました。これにより 151 号以降を欠号なく揃え（初号から 150 号までは CD-ROM 化済）、電子化するとともに、国会図書館への納本を実現しました。併せて、支部サイトでの公開を目的に、著作権者への周知を行いました。現在、支部サイトの過去発行号目次の遡及入力を完遂し、ここにスキャンした各号を掲載する準備を進めています。

今年度発行した支部報の目次は、次のとおりです。

## 1) 支部報 No.277(2010/08/15 発行)

- \* 大学図書館問題研究会第 33 回京都支部総会を開催しました
- \* 2009 年活動総括および 2010 年活動方針
- \* 2009 年度決算案および 2010 年度予算案、会計監査報告
- \* 2010 年度大学図書館問題研究会京都支部役員
- \* 大学図書館問題研究会第 33 回京都支部総会 議事メモ・補足事項
- \* 大図研京都ワンディセミナー参加報告：大学教育改革のただ中、図書館員の『営業』的アプローチとは（安藤 証）
- \* 大図研京都ワンディセミナー参加報告：教員と連携して効果的な情報リテラシー教育を実現するために（梶谷 春佳）

## 2) 支部報 No.278(2010/10/15 発行)

- \* 大図研京都ワンディセミナーのご案内
- \* 支部委員挨拶
- \* 第 41 回全国大会報告
- \* 大図研京都支部忘年会のご案内

## 3) 支部報 No.279(2010/12/15 発行)

- \* 支部報バックナンバー電子化に伴うお願い
- \* 小特集：kulinarians vs Lifo 決戦！京都冬の陣 kulifo 参加報告（八木澤ちひろ）
- \* 小特集：kulinarians vs Lifo 「ku-librarians vs Lifo」こぼれ話（光森奈美子）
- \* 「第 11 回図書館総合展 L-1 グランプリ」参加報告 図書館総合展 L-1 グランプリに参加して（長坂和茂）
- \* 移転はつらいよ～経験と失敗より（野間口真裕）
- \* 原稿執筆と生みの苦しみ（池田貴儀）

## 4) 支部報 No.280(2011/02/15 発行)

- \* 関西 3 支部新春合同例会のご案内
- \* 小特集：大図研京都ワンディセミナー参加報告～大学図書館としての障害学生支援を考える（三本木彩）

- \* 小特集：大図研京都ワンディセミナー参加報告～「できることから始めよう！」大学の取組事例－（藤山優美）
- \* 小特集：大図研京都ワンディセミナー参加報告～広がりを見せる障害学生支援について（日置将之）
- \* 連続企画：わたしの図書館紹介します！紹介番号 1 京都大学工学研究科桂地球系図書室（坂本拓）

5) 支部報 No.281(2011/04/15 発行)

- \* 関西 3 支部新春合同例会 終了しました
- \* 大学図書館問題研究会 関西 3 支部新春合同例会「めざせ！図書館発、USTREAM 中継！」参加報告（水野翔彦）
- \* 資料保存動画作成過程～思想と方法について（長坂和茂）
- \* 次回ワンディセミナーの予告

6) 支部報 No.282(2011/06/15 発行)

- \* 大学図書館問題研究会第 34 回京都支部総会のご案内
- \* 大学図書館問題研究会第 34 回京都支部総会議案
- \* 京都支部委員の募集について
- \* 書評櫻田忠衛著「経済資料調査論の構築：京都大学経済学部での試み」（堤豪範）
- \* 「平成 23 年度関西 MLA 名刺交換会」実施報告（岡部晋典）
- \* 大図研京都ワンディセミナーのお知らせ
- \* Web サイトやブログをお持ちの方、京都支部の Web サイトからリンクを張りませんか？
- \* 大図研京都ワンディセミナーのお知らせ
- \* 京都支部 Twitter アカウント「daitokenkyoto」をフォローしませんか
- \* 大学図書館問題研究会第 42 回全国大会のご案内

(3) Web サイト、メーリングリスト、メールマガジン

Web サイトでは、イベントのお知らせや、支部委員会の報告等、支部活動の記録を定期的かつ迅速に掲載しています。2011 年 6 月 30 日現在、10,215 アクセスを得ています（アクセスカウンター設置：2006 年 8 月 22 日）。

メールマガジンは、「大図研京都支部 NewsLetter」として、no.108（2010 年 7 月 2 日）から no.125（2011 年 6 月 2 日）を発行しました。支部委員会議事録、支部企画案内等を随時送信することで支部活動をお知らせするとともに、月 1 回のイベント案内を定期的に発行し、好評を得ています。

(4) 組織活動

会員数は、2011 年 6 月 30 日現在 65 名で、2010 年度当初の現勢を維持しています。また、セミナー案内チラシへの入会案内同封や個別の勧誘等を積極的に行うなどして、あらたな会員獲得に努めています。

## (5) 財政

昨年度に引き続き、会費納入率の向上に努めています。また、所定の会費徴収スケジュールに則った計画的な督促業務を行うことによって、低い未納率も維持しています。なお、各年度の未納率は次のようになっています。2007年度1%、2008年度3%、2009年度6%、2010年度10%（2006年度以前は0%。休会扱い1名を含む）。

## (6) その他

全国大会では、支部会員から意見を募った上で大図研の運営改善等に関する提案を行いました。また、大図研 Web サイトの更新プロジェクトについても提案を行っています。

また、例年どおり「大学の図書館」の1号の編集を担当し、5月号（特集：図書館員の外国語事情）を作成しました

## 2. 2010年度活動方針

### (1) 研究交流活動

会員のニーズに応じた研究活動の充実をはかり、会員の専門的力量形成と交流に役立てるため、セミナー等を2回程度、開催します。また、積極的な参加と交流の実現のため、セミナー企画段階からの参加募集の試みを継続します。適切な参加費設定の検討も引き続き進めていきます。なお、地域における積極的な参加を促すため、京都および周辺地域の大学図書館等、関連する組織への広報も継続していきます。

### (2) 支部報

定期発行と正確で読みやすい誌面の作成とともに、広く寄稿を求めかつ連載記事を企画することにより、コンテンツの一層の充実に努めます。また、自己啓発や会員間交流の場としての支部報のみならず、より多くの会員に「発表の場を提供する」支部報となるよう引き続き努力します。また、電子化したバックナンバーの支部サイトへの遡及掲載作業を進めます。

### (3) Web サイト、メーリングリスト、メールマガジン

京都支部の活動に関する情報をわかりやすくかつ迅速に提供するため、Web サイトを随時更新します。とくに支部報記事の電子化による積極的な公開や会員リンクの充実など、コンテンツの拡充と会員間コミュニケーションの促進を一層強化します。また、メールマガジンの定期的な発信を継続するとともに、Twitter アカウントの積極的活用を模索します。

## (4) 組織活動

大学図書館問題研究会および京都支部の活動を説明し、会員を増やす活動を進めます。セミナーをはじめあらゆる機会をとらえ、関連組織への広報の実施と入会の勧誘に努めるだけでなく、魅力的な会報づくりや有益なセミナーの開催、会員交流の場の提供等、充実した支部活動を行います。

## (5) 財務

所定の会費徴収スケジュールに従い、個々の会員へ個人別会費納入状況のお知らせや振込用紙の発送を行うことで、会費納入率を維持します。また、長期滞納者を作らないため、滞納の兆候が見られた段階での積極的な督促を行います。なお、節約の結果として積み立てられた予備費を効果的に活用する方策として、有料の講師や連続セミナー等に向けての積立金を作成するなど、研究交流活動の一層の充実策を引き続き検討します。

## 【第2号議案】

2010年度(2010.7～2011.6)決算案及び

2011年度(2011.7～2012.6)予算

## 2010年度決算案(2010.7～2011.6)

総収入	総支出	差引残高
599,252	299,547	299,705

## ■収入の部

項目	予算	決算	差引額	備考
前年度繰越金	316,587	316,587	0	
2011年度会費	0	7,000	-7,000	1名(@7,000円)
2010年度会費	259,000	224,000	35,000	32名(@7,000円)
2009年度会費	77,000	28,000	49,000	4名(@7,000円)
支部報購読会費	2,000	10,000	-8,000	1名(@2,000円×5年分)
セミナー参加費	15,000	10,000	5,000	12月(10,000円)
大図研出版物支部卸 頒布	0	1,000	-1,000	
寄附金	0	2,580	-2,580	
口座利子	0	85	-85	
合計	669,587	599,252	70,335	

※会費内訳(本部会費4,500円+支部会費2,000円+支部還元金500円)

## ■支出の部

会報	60,000	43,350	16,650	印刷 (13,120 円) /送料 (30,230 円)
研究交流会費	160,000	72,989	87,011	12 月 (33,973 円) ,2 月 (20,320 円) ,7 月前払 (18,696 円)
事務費	20,000	4,552	15,448	うち会費振込手数料 (2,200 円)
HP 維持費	3,000	3,000	0	
研究交流会積立金	100,000	0	100,000	
支部委員活動費	30,000	0	30,000	
大図研出版物支部卸購入	0	4,200	-4,200	7 冊 (@600 円)
口座税金	0	15	-15	
本部会費	216,000	166,500	49,500	37 名 (@4,500 円)
予備費	80,857	4,941	75,916	特別事業費電子化印刷・裁断代(4,941 円)
合計	669,857	299,547	370,310	

## 2011 年度 (2011.7~2012.6) 予算案

## □収入の部

項目	予算	備考
前年度繰越金	299,705	
2011 年度会費	448,000	64 名*7,000 円
未納会費	91,000	2010 年度 : 6 名*7,000 円
		2009 年度 : 4 名*7,000 円
		2008 年度 : 2 名*7,000 円
		2007 年度 : 1 名*7,000 円
セミナー参加費	15,000	
大図研出版物支部卸頒布	5,000	
合計	858,705	

## □支出の部

会報	60,000	印刷費 (20,000 円) /送料 (40,000 円)
研究交流会費	160,000	
支部委員活動費	30,000	
大図研出版物支部卸購入	6,000	5 冊×2 種類 (@600 円)
事務費	20,000	
HP 維持費	3,000	
研究交流会積立金	100,000	
本部会費	346,500	77 名 (@4,500 円)
予備費	133,205	
合計	858,705	

2010 年度大学図書館問題研究会京都支部会計監査報告

帳簿および現金は適正に保管・記載されていた。

2011 年 7 月 30 日

呑海 沙織 (印)

原竹 留美 (印)

決算

- ※ 高い会費納入率で、多くの収入を得ています
- ※ セミナー開催が 6 月でなく 7 月開催となったため、前金払いのみ決算に含んでいません
- ※ 事務費の内訳は主に事務用品と会費振込手数料です
- ※ これまで担当に一任していた大図研出版物支部卸分を担当引き継ぎにより立替分を清算して支部で購入し、頒布代金を収入としました
- ※ 2 件の寄附を受けました
- ※ 特別事業費として電子化用印刷・裁断代を支出しました
- ※ 督促遅れにより新年度会費の納入率が低くなっています

予算

- ※ 支部卸購入分を新たに支出としました
- ※ 1 号議案により、研究交流会目的の積立金を設定しています

【第 3 号議案】

---

2011 年度大学図書館問題研究会京都支部役員

支部委員 (50 音順)

- |        |                         |
|--------|-------------------------|
| 赤澤 久弥  | (京都大学附属図書館)             |
| 安東 正玄  | (立命館大学図書館)              |
| 池田 貴儀  | (日本原子力研究開発機構研究技術情報部)    |
| 金森 悠一  | (京都教育大学附属図書館)           |
| 米田 寿宏  | (京都大学工学研究科・工学部桂電気系図書室)  |
| 坂本 拓   | (京都大学工学研究科・工学部桂地球系図書室)  |
| 辰野 直子  | (京都大学農学研究科生物資源経済学専攻司書室) |
| 寺升 夕希  | (滋賀医科大学附属図書館)           |
| 長坂 和茂  | (京都大学工学研究科・工学部桂化学系図書室)  |
| 西野 紀子  | (非公開)                   |
| 野間口 真裕 | (京都大学経済学部図書室)           |
| 原竹 留美  | (滋賀医科大学附属図書館)           |
| 藤谷 篤   | (立命館大学図書館 (委託職員))       |
| 藤野 まゆみ | (立命館大学図書館)              |
| 山下 ユミ  | (京都府立医科大学附属図書館)         |

## 監査委員

楠見 牧子 (滋賀医科大学附属図書館)  
渡邊 伸彦 (京都大学附属図書館)

## 全国委員

長坂 和茂 (京都大学工学研究科・工学部桂化学系図書室)

---

### <大学図書館問題研究会第34回京都支部総会 議事メモ・補足事項>

会員の皆様に支部総会当日の様子を知って頂くために、簡単に当日の様子をお知らせします。

1. 赤澤支部長から第1号議案について説明があり、原案のとおり了承されました。
2. 山下支部委員・野間口支部委員から第1号議案について説明があり、原案のとおり了承されました。
3. 支部委員、監査委員、全国委員については、第3号議案のとおり選出されました。
4. 来年度は、会員数70名、会費納入率100%を努力目標として掲げ、支部を運営することになりました。

○1号議案については、以下の補足説明がありました。

研究交流活動では第1号議案に記載したものの他に、3月に実施された「大学図書館問題研究会 関西3支部新春合同例会「めざせ！図書館発、USTREAM中継！」」にて東日本大震災の義援金を募り、参加者他から、合計12,000円の義援金を関西3支部として日本赤十字社に寄付しました。

○2号議案については、以下の補足説明がありました。

#### 決算

- ・2010年度の第2回目のワンディセミナー開催が都合により7月開催となったことにより、開催日は2011年度ですが、前金払いのみ2010年度分に含んでいます。
- ・大図研出版物の支部卸分はこれまで全国委員が購入していたが、2010年度からは支部で購入することとして全国委員の立て替え分を支部で買い取りました。今後は支部で支部卸を購入し、頒布代金は支部の収入とします。
- ・2件の寄付を受けました。

#### 予算

- ・大図研出版物の支部卸分購入費を新たに支出としました。

○3号議案については、以下の補足説明がありました。

支部委員は5名増えました。なお、京都支部からは、これまでより池田支部委員が常任委員を務めています。このたび常任委員会からの要請を受けて、来年度1年は、京都支部から新たに1人の常任委員を選出することとし、これを支部会員の大綱浩一氏に担当してもらうことが報告されました。

○次の質疑応答がありました。その場でお答えした内容に事後の補足を含めて、支部からの回答とさせていただきます。

発言：繰越金が多すぎるようだが。

回答：ここ数年、延滞している会費の督促が実を結んだ結果である。今後はセミナー実施等を通じて会員への還元をしていきたい。

発言：「研究交流会積立金」というのは実際に積立しているのか。積み立てていないのであれば、費目がふさわしくないのではないか。また、実際に積み立てをしてもよいのではないか。

回答：これは研究交流会で講師謝礼等でさらに費用が必要になった時のための予備費で、毎年積み立てているわけではないので名称が合っていない。予備費という費目は既にあるので、ふさわしい名称を検討する。また、何らかの節目に大きなイベントをするというような目的を持って積立をすることも検討したい。

発言：常任委員について第3号議案に記述がないのは、京都支部の支部委員とは別の業務だからであることは理解できるが、本部に対して京都支部が貢献していることをアピールする意味でも、Webサイトも含め書いておくべきではないか。京都支部内で特に名称がないのであれば、常任委員を務めている会員に対して、例えば「特別支部委員」等の名称を設けてもよいのではないか。

回答：記述する方向で検討する。

発言：会費を延滞した会員は、会員資格停止になるのか。

回答：3年分の会費を支払わなかった場合には会員資格停止となる。第2号議案では、2007年の未納会費があるとしているが、実際にはこの会員は資格停止になっている。ただ、お支払いいただくべき会費は会員資格停止後も、一定期間は督促していきたいというのが財務担当の考えである。

発言：ワンディセミナーで支部委員以外のスタッフとの協働を行ったとのことであったが、そのスタッフに他支部の会員が入っていたことに少し違和感を感じる。

回答1：この協働には新しい支部会員の獲得につなげる意図もあるので、他支部の会員についても含めるかどうかは、検討の上今後は募集したい。

回答2：ワンディセミナーでのスタッフ募集と協働においては、セミナーを開催していない他支部の会員も募って、運営のノウハウを共有するという考え方もあるのではないか。また、他支部でセミナーを実施する際にヘルプ要請をしてもらい、それを受けるといいうことも可能ではないか。

支部総会は、会員の皆様からのご意見・ご提案をいただき、また前年度の支部活動を総括し、次年度の方針を決定する重要な場です。ついては、会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

今回いただいた貴重なご意見をふまえて、今後の支部活動を運営していきます。引き続き、支部活動へのご参加と支部運営へのご協力をお願いいたします。

支部活動へのご意見・ご要望等がありましたら、ぜひ電子メール [kyoto@daitoken.com](mailto:kyoto@daitoken.com) (大学図書館問題研究会京都支部) までお寄せください。

---

## 大図研京都ワンディセミナー

### 「伝える技術を磨こう～比較文化の視点で発信力アップ～」参加報告

豊田 哲也

---

2011年7月30日(土)に大学図書館問題研究会京都支部主催のワンディセミナーに参加する機会をいただいた。講師の松中先生をはじめ、支部の委員の皆様の的確な司会、進行のおかげであつという間に時間が経ち、大変有意義なセミナーであった。

今回参加報告の執筆を依頼いただいたので、ここに報告する。

#### 1. はじめに

大学図書館職員に求められる資質・能力は近年大きく変化している。そのことは、「大学図書館の整備について(審議のまとめ)ー変革する大学にあつて求められる大学図書館像(平成22年12月 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会)」の中で次のように述べられていることから明白である。

電子化の進展や教育研究支援への積極的な関与など、現在の大学図書館を巡る状況を踏まえると、かつてのいわゆる図書館学的な専門性だけでは大学図書館職員としての対応が困難な状況がある。即ち、図書館に関する専門性に加えて教育研究支援を円滑に行い得る学生や教員との接点としての機能を含めて大学図書館全体のマネジメントができる能力など、状況変化に対応した専門性が求められている。

上記引用文中の「学生や教員との接点」に加えて、これからの大学図書館職員には学内他部課の職員とも積極的に接点を持ち、連携していくことが大切だと考える。また、大学図書館という部署は大学の中でも比較的他大学との交流が盛んであり、研究会等で意見交換することが多い。そういった様々な人と出会う中で、いかに上手くコミュニケーションを取ることができるかが、その後の展開を深めていく上で非常に重要となってくる。今回、自分自身のコミュニケーション能力を高めることで、大学職員としてのスキルアップ、更には所属する組織への貢献につなげたいという想いを持ってセミナーに臨んだ。

#### 2. 研修内容

##### (1) 講師

アジアセンター英語講師、アルク教育社講師、  
ピナツボ・アエタ教育里親プログラム代表 松中 みどり氏

##### (2) セミナーの目的

スピーチや自分の考えを伝える際の留意点を学び、自分の「声」に意識を向ける実習を交えた参加型スタイルのセミナーを通じて、プレゼンテーションやコミュニケーション能力を高めることを目指す。

### (3) 内容

#### ①自己紹介（オープニング）

自分を表す言葉を並べて自分のキャッチコピーを作るという取り組みを行った。まず、ペアで自己紹介を行い、相手の話し方、表情を見てキャッチコピーを考えるのをお互いに助け合った。

その後、全員の前で一人ひとりキャッチコピーを含めて自己紹介を行った。同じようなフレーズでも組み合わせや話すときの表情、声のトーンで受け手の印象が異なるように感じた。

#### ②ボイストレーニング

講演等、人前で話をする際に相手に自分の声（話）を伝えるためには「正しい立ち姿勢」と「腹式呼吸」が大切だと説明を受け、参加者全員で実際に取り組んだ。また、s(エス)音や z(ゼット)音を何秒続けて出せるかというタイムトライアルを行った。目標(目安)は、女性で 20 秒、男性で 30 秒とのことであり、この基準を超えない場合は腹式呼吸がうまくできていない可能性が高いと説明された。

その後松中先生より、声の何を変えたら「魅力的な声ってどういう声？」という言葉の言い方は変わると思うか、と問題提起され、参加者で意見交換を行った。松中先生いわく、「声の要素」を理解し、場面に応じた使い分けをすることが重要とのことである。ここでいう声の要素とはすなわち、1) 大きさ、2) スピード、3) 高低、4) 間、5) 音色のことである。

ここで一番大切なことは、魅力的な声、つまり相手に伝わる声というのは自分が伝えたい事象や場面によって異なるということである。例えば、明るい話題を伝える場面でその情報の発信者が、暗い沈んだ声で話をする、なぜか喜びが半減してしまったという経験は誰しもあるだろう。逆に、楽しく元気いっばいな声で話を伝えてくれれば、喜びは何倍にも膨れ上がってその場で共有されるはずである。そういった声の要素を正しく理解することの重要性を改めて学んだ。

学んだことの実践として、声の要素を変えて「自分のフルネームを言う」、「文章朗読」に取り組んだ。

#### ③ロジカル・スピーキング

ここからは 1 グループ 5 人単位でグループワークを行った。先生から「外国語学習について 1 分間でスピーチしてください」という課題が出され、グループで順番を決め一人ずつ行った。1 人が終了するごとにグループ内での振り返りや先生からのアドバイスが出され、5 人目の方が話すときには重要なポイントをしっかりと押さえてスピーチが出来ているという工夫がなされていた。

先生からのアドバイスについて順を追って説明していくと、スピーチを行う際にはまずはトピックをしっかりと理解すること、そしてトピックセンテンスをいかにうまく切り取るかが大切だということである。トピックセンテンスとは話の「趣旨」である。決めるのが難しい時は「好き」・「嫌い」・「賛成」・「反対」でも構わないが、迷った場合はポジティブな方を選んだ方が良いとのことであった。

次に、話の構成は 3 つでまとめると良いとのことであった。具体的には、「ペットを飼う」という話の趣旨であれば、1) 子どもが飼う、2) 夫婦が飼う、3) 高齢者が飼う、といった具合である。ここで大事なことは 3 の構成は同じ階層、

つまり並列の関係で作ることである。そうすることで話に「枝」ができ、ポイントを押さえた話になるといえる。3つの構成を考える際はできるだけ発想を大きくし、たくさんの選択肢の中から選ぶことが大切である。

最後に、いったん決めて話し出したら、その主張で最後まで貫き通すことが重要である。「犬が好き」と主張しながら、途中で「実は猫も…」としてしまうと、話に一貫性がなくなり、聞き手に話の趣旨が正しく伝わらなくなってしまうというのが理由である。

また、話をする際に、英語の論理構成を利用する手法もある。具体的には、「Comparison and Contrast (似ている部分と違う部分)」の比較や「Cause and Effect (理由と結果)」である。外国の授業での「国語」では、小学校の頃からこういった論理的な話し方について日々練習し、鍛えられているという話はとても印象的だった。

#### ④ナラティブ・スピーキング

心から言いたいこと、どうしても相手に伝えたいことがある場合にどのようにアプローチしていくか、という説明があった。5名単位のグループを基本としながら、10名やペアでも実習を行った。グループ内で、アイコンタクトのみで一人ずつ1、2、3と読み上げ、誰も重複することなく、10まで数え上げるといったものや、一人が自分の好きなテーマでスピーチを行い、聞き手は、話し手が自分に対して話しかけてくれていないなと感じれば垂直に挙げた手を徐々に下げていくというグループワークを行った。また、ペアでの実習で、聞き手は話し手に対し、聞いていない態度と能動的、反復的、共感的傾聴の態度の2つのパターンで接するというところを行った。

これらの実習を通して先生が伝えなかったのは、「話の良し悪しは聴いている人の態度に左右される」ということである。これは一見すると当たり前のことのように感じるが、自分が話す立場だったときに、そういった観点を意識できているか、ということが大事になってくると考えられる。聞き手一人ひとりとうまくアイコンタクトをとる、声の5つの要素を使い分ける等の工夫を行うといった話し手の努力、仕掛けも大切である。

最後に、大切なメッセージを効果的に伝えるためにストーリーを語る、すなわち物語の力を借りるという手法も紹介された。世の中には、「挨拶をしよう」、「勉強をしよう」、「日常に感謝しよう」といった当たり前のことが書かれている標語をよく目にするが、なかなかうまく伝わることは少ない。それを例えば、『アリとキリギリス』というストーリーを語れば、多くの人たちは「勤勉は大事」というメッセージを受け取るのではないだろうか。このようにストーリーには「心」に語りかける力があり、誰かを動かすことができるのである。ただ、ストレートにメッセージを発信するのではなく、時にはこういった伝え方もあるということを改めて学ぶことができた。

### 3. さいごに

今回のセミナーのテーマが「話す」ではなく、「伝える」技術を磨こうという表現だったことを改めて振り返ってみると大変興味深かったと感じた。なぜなら、話というのは相手に伝わって初めて意味があるといえるからである。相手に伝わっていなければ、それは話していないのと同義だと私は考える。それは大学図書館職員というフィールドにも当てはまることである。例えば新入生リテラシーの授業で説明した図書館活用術が学生にとって本当に必要な時期になるとほとんど覚えていないということは日本の大学図書館における大きな課題である。もちろん、聞き手である学生側の意識や、開催時期といった要因もある。そもそも大学は学生が自主的に学ぶ場だという指摘も

あるだろう。しかし、授業においても一方的な講義形式が見直されているように、大学図書館職員が担当する新入生リテラシーの授業や各種データベースガイダンス等についても、学生に伝わる、すなわち理解してもらうための工夫や仕掛けを今まで以上に我々が考え、努力し、実践する必要があるといえるのでないだろうか。今回は上記課題に対する持論を展開することなく、問題提起にとどめることをお許し願いたい。

最後に大学図書館問題研究会京都支部のますますの発展を祈るとともに、講師の松中先生、支部委員の皆様、参加者の皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

とよだ てつや (立命館大学図書館サービス課)

◇ 会費納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

大図研会費および京都支部会費の納入をお願いしているところですが、納入率は依然思わしくない状態にあります。既に2011年度(大図研会計年度2011.07 - 2012.06)に入っておりますので、2011年度の会費の納入をお願い致します。また、2010年度以前の会費をお納めいただいていない会員のみなさま、一刻も早い会費の納入にご協力いただきますようお願い致します。

**会費は、¥7,000 (大図研会費：¥5,000+京都支部会費：¥2,000)です。**

会費は下記口座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員におことづけください。

**郵便振替振替口座番号 01090-4-5904 大学図書館問題研究会京都支部**

また、ご不明な点は大学図書館問題研究会京都支部 (kyoto@daitoken.com) まで。